（別紙様式５）

# 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）
## 留学結果報告書

令和　7年　7月　10日

山梨県知事　殿

本人氏名　宮田琥太郎

次のとおり留学の成果を報告します。

| | |
|---|---|
| 留学先国名 | アメリカ合衆国 |
| 学校等名 | Wakefield High School |
| 留学期間 | 令和　6年　8月　1日 ～ 令和　7年　6月　27日 |

8月の頭から6月の末までのこの10か月半のアメリカ生活は、私にとってはただただ壮絶で、人生において今後忘れることがないだろう濃密な期間でした。そのアメリカ生活で私は多くのことを学び、知り、深め、そして自分のものにできたと思います。ここでは字数の許す限りで私の経験とそれをどう今後生かしていくかについて紹介し、最後に数枚写真を添えて、それを最終報告とさせていただきたいと思います。

第一にやはり英語力ですが、正直なところ自分でもびっくりしてしまうほどに伸びたと思っています。当初は難しいと思い留学前に自分に課した数個の具体的な目標も、今振り返ればただ当たり前のことにしか思えません、といった具合です。ですがもちろん完璧なぞというものには程遠く、発音にしても語彙にしても、何をとっても英語的な課題は山積みなのが現状です。きっと今後どんなに積極的に英語に触れたとしても、英語を第一言語とする人たちの細かいニュアンスや正しい発音を完全に習得するのは難しいと思います。しかしそこでへこたれてしまうには、英語という言語体系はあまりに面白く、奥の深いものなので、これからも世界の第一言語であるこの英語の能力を全力で伸ばして、グローバルに活躍できるような人材になれるよう努力していきます。

そしてもう一つ、海外生活を経て私は、母国である日本という国を客観的に見ることができるようになりました。現在日本は約15%というG7最低水準となるパスポートの取得率を記録しています。これを見て、国民が世界へわざわざ出ていく必要のない日本は素晴らしい国だ、と賞賛をする人もいますが、私は日本の人材が世界へ羽ばたいていかないのがもったいないという思いの方が強いです。というのも、第三者的視点で私たち日本の位置づけを見ていく中で、日本人のなんと素晴らしいことか、ということ実感したからです。アメリカ生活ではことあるごとに、「さすが日本人のやってくれることは信頼できる」や「日本ではこんなに丁寧に作業することがあたりまえなの？」といった言葉を多く頂きました。どれも自分の当たり前、日本人の平均的な完成度、効率でこなしただけですが、それが彼らにとっては卓越した一つの能力に見えるのです。そうした経験

から、日本人や日本という国はユニークで世界から一目置かれており、その素晴らしい技術や人間性を必要としている現場は数えきれないほどあるのだと感じました。世界からの日本へのニーズを的確に国内に流し、もっと世界と繋がっていける日本になるよう先導したいな、と客観視から思えるようになったのは、今後の私の人生において大きな一つの転換だったと思います。
これも抽象的になってはしまいますが、何事に対してもいったん受け止め、寛容になれる、という能力もこの留学生活を経て身についたことの一つだと思います。もう少し言葉を砕くとすれば、色々な立場の人の様々な視点からの意見や考えが、いくら自分の信じているものや、正しいと思っていることに反していても、相手を理解しようと冷静になれるようになったということです。この約一年間は、当たり前ではありますが、日本というぬるま湯につかっていた自分には想像もつかないようなことの連続でした。大きなトピックでいえば、銃声が聞こえたときは本当に驚きましたし、小さいことですがお風呂に毎日は入らないのが当たり前と知った時には思わず叫びそうになったのを鮮明に覚えています。私の学校はほかと比べて特別人種が多かったこともあり、日本人の私は多くの人とのすれ違いを経験しました。最初のころは英語もろくに話せなかったのでお互いの考えや意見をすり合わせていくのは到底無理でしたし、そんなことをする必要もないとすら思ってしまっていました。しかし留学生活も後半に差し掛かり、相手の意見を聞いたうえで自分の意見を言えるほどの英語力が身についてくるとその排他的な考えは変わってきました。というのも英語が身についてきて、この国、ここの人々の多様性と笑顔は互いが互いを寛容に受け止めお互いに寄り添っていく姿勢から生まれているのだと気づいたからです。そして留学終盤では相手を理解しようとすることはこんなに楽しいものなのかと思うほどになっていました。相手だって私だって各々違うだけで、どちらが正しいなんて絶対的な尺度は存在しない、この学びはこれから日本国内、海外関わらず多くの人と出会っていく私の、大きな一つの軸になると思います。
ここまででは基本的に留学中のことを書いてきましたが、ここでこれからのことについて少し触れたいと思います。具体的にはこの留学を経て、今後の進路をどのようにしていくのかについてフォーカスしていきます。現在私は進路として東北大学を第一志望としています。東北大学工学部には国際機械工学コース(IMAC-U)という全授業英語で英語学位が取れるといった制度があります。私は特に研究という分野に興味があるのですがそれに拘らずとも、国境が薄れてグローバルが加速していく時代の、頼れる人材になるためには英語は絶対的に最優先事項だと思っているので、この東北大学の工学部国際機械コースは自分とマッチしているなと思います。入学後は実は外国人と同じ授業を受けることになります。実はそれに対しても前向きな印象を持っていて、それは留学中に受けていた大学レベルの授業である AP クラスでの優秀な生徒たちとの話し合いや競争がとても楽しかったからです。よく日本は賢いといわれますし、データの平均を見れば確かにそれは事実だと思います。しかし上澄みを考えるとアメリカの学生も本当に素晴らしく、シンプルに合計の生徒数から鑑みて日本の上澄みの生徒よりも、賢いかもしれません。賢さの定義など様々複雑なことはありますが、ここで私が言いたいのは、意欲のある学生は国や言語を飛び越えて互いに高めあう集団を形成していくということです。

そんな国際的な学びの中心地に私もいたいと思っています。
ここまでお読みいただきありがとうございます。この濃密な一年はまだまだ語り切れていませんが、最後に総じて言うなれば一言、「くっそ楽しかったです！！」この文章が何か皆さんの心のねじを一つでもいい、数ミリでもいいから狂わせることを願っています。
ありがとうございました。

ARMY
HARD ROCK
1971

HOLLYWOOD